

令和2年度 第1回 狭山市行財政改革推進委員会 会議録

開催日時：令和2年7月17日（金）13時30分から15時00分

開催場所：市役所602会議室

出席者：廣川会長、倉島副会長、栗原委員、神月委員、後藤委員、齊藤委員、
外山委員、服部委員、山口委員

欠席者：金子委員

事務局：木村総合政策部長、栗原総合政策部次長兼基地対策課長、
大谷総合政策部次長兼政策企画課長、
田口課長、山岸主幹、沼田主事補

傍聴者：なし

議 事

(1) 行政評価について

ア 令和2年度狭山市行政評価について

イ 令和2年度狭山市行政評価第一次評価の変更点について

ウ 令和2年度狭山市行政評価外部評価について

(2) その他

〔要 旨〕

(1) 行政評価について

以下のとおり審議を進めた

ア 令和2年度狭山市行政評価について

- ・令和2年度の狭山市行政評価については、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、例年と同様の実施が難しいことから、第一次評価を簡略化して実施し、第二次評価は実施しない方向で進めていることについて事務局より説明を行った。

イ 令和2年度狭山市行政評価第一次評価の変更点について

- ・第一次評価における前年度からの変更点について、事務局から説明を行った。変更点は評価区分と事務事業評価表のレイアウトで、いずれも、今年度の行政評価の簡略化によるものではなく、前年度の評価作業において浮かび上がった課題等を解決するためのものである旨の説明も行った。

ウ 令和2年度狭山市行政評価外部評価について

- ・第一次評価が、例年と比べ作業が遅れている状況に加え、第二次評価は実施しないこととしたため、昨年度の委員会で想定していたスケジュールと評価方法で、外部評価を実施することは難しい状況であることについて事務局から説明を行ったうえで、令和2年度における外部評価の実施方法等について議論いただいた。その結果、令和2年度は外部評価を実施せず、第一次評価結果に対する意見交換等を議題として委員会を開催することで確認いただいた。

(2) その他

- ・ 次回の狭山市行財政改革推進委員会は、10月2日（金）開催の予定で調整を進めることで確認いただいた。

[議事についての質疑、意見等]

議事(1) 行政評価について

ア 令和2年度狭山市行政評価について

- ◇ 令和2年度の狭山市行政評価については、第一次評価を簡略化して実施し、第二次評価は実施しない方向で進めていることについて、事務局より説明。

イ 令和2年度狭山市行政評価第一次評価の変更点について

- ◇ 第一次評価における前年度からの変更点である、評価区分と事務事業評価表のレイアウトについて、事務局から説明。

ウ 令和2年度狭山市行政評価外部評価について

- ◇ 第一次評価の作業が遅れている状況に加え、第二次評価は実施しないこととしたため、昨年度の委員会で想定していたスケジュールと評価方法で、外部評価を実施することは難しい状況であることについて事務局から説明。

委員 外部評価を実施するか否かについての議論が必要。ポイントとなるのは、この状況下において、会議の開催を含め、実施が本当に可能なのかということと、昨年よりタイトなスケジュールにおいて、評価作業をこなすことができるのか、の2点になると考えられる。

委員 現在、市では、本来の業務以外に処理しなければならない業務が数多くあり、普通の状態ではない。このような状況下では、本来の姿とはかけ離れた評価結果になりかねない。体制が整い、評価を行なえる状況となってから仕切り直したほうがよいのでは。

委員 コロナの影響により、必然的に市の事業に優先順位がつけられたと想定される。不要不急ではない事業の洗い出しとなるのではないか。

委員 事業が通常通りにいかない状況であることは理解できる。一方で、来年になれば通常通りに戻るといった保証はない。これまでの評価方法に捉われないのであれば、外部評価を行なうことが不可能とは思えない。

委員 コロナ禍において、会議の開催回数や開催時間に限度が生じることは理解できる。昨年と同様の評価方法は難しいので、第一次評価結果のうち、誰しもが理解しているようなわかりやすい事業を対象とする方法もあるのでは。

- 委員 第一次評価の評価方法に変更が生じたとのことだが、それについて勉強する時間もあまりない状況において、適切な評価をくださるのは難しいのではないか。
- 委員 評価の対象事業を絞れば、所管の負担も少なく、実施は不可能ではないと考える。どのような状況であっても、市民目線による外部評価は必要であり、未曾有の事態である今だからこそこできる評価方法もあるのではないか。
- 委員 そもそも、外部評価は必ず実施しなければならないものなのか。実施が必要なのであれば、この状況下で行える可能な範囲の手法を検討しなければならない。いずれにしても、評価フレームについての検証は必要と考える。
- 事務局 外部評価は実施が必須なものではないが、市民目線による外部評価は、様々な方面から期待されているものであることから、事務局としてはお願いしたいと考えている。ただし、実施が必須ではないことから、今年度については、外部評価の精度を高めるため、評価作業は行わず、次年度に向けての手法の検証等に充てるのも一つの方法だと考えている。
- 委員 行政側の要望で俎上に載せられた事務事業を評価するのが、本来の行政評価であるが、一個人の市民目線として、市の問題を取り上げて意見を羅列するなど、会議を開催しなくても評価に近い作業は行えるのではないか。
- 委員 評価結果として取りまとめなくても、意見交換という形で委員会側の思いを伝えることは可能では。
- 委員 行政側にとって、外部評価が必要なのであれば、何某かの形で結果を残す必要があると考える。ただ、委員会である以上、個々の意見の羅列ではなく、委員の話し合いの場で評価結果を導くべきではないか。リモート会議や電子メール等、会議に替わり、委員同士でコミュニケーションをとれるツールを利用するのも一つの方法であると考え。
- 事務局 外部評価は必須ではないが、必要なものと考えている。一方で、この状況下における、各委員の健康管理が、最も留意しなければならない点であることは揺るがない事実である。そのため、会議の開催頻度や開催時間が限定的となり、リモート会議等を開催できる環境が物理的に整っていないことから、どうしても書面等による協議にならざるを得ないと考えられる。
- 委員 外部評価の実施にあたっては、現場の職員の声を聞くなど、事業についての理解を深める機会がないと、適切な評価結果は導き出すのは難しいのではないか。
- 委員 現段階で、事務局サイドで外部評価を実施したいと考える事務事業はピックアップされているのか。
- 事務局 第一次評価がまだ作業中であるため、現段階でのピックアップはできていない。
- 委員 昨年度の委員会では、外部評価の対象事業のピックアップから委員会で行う考えだったはず。それが難しいのであれば、事務局が選定した評価対象事業から更に数を絞って行うか、外部評価を実施しないか、の2つの選択

になるのでは。

事務局 昨年度の委員会では、多少、難のある事務事業を外部評価に諮り、事業の方向転換に活用してほしい旨の発言をいただいた。しかし、今年度は、仮に外部評価を実施したとしても、事業の存在意義にまで導くのが難しい状況であることから、今年度の実施は見送り、来年度に改めて仕切り直すのが現実的かと考えている。

委 員 本会議の結論としては、「①外部評価を実施する」、「②外部評価を行わず、別の内容で別途委員会を開催する」、「③今年度は、外部評価も委員会も行わない」の三択になると考える。

委 員 会議の開催を予定しておいて、社会情勢等により、開催が叶わなくなったら、各委員の意見を書面で吸収するなど、臨機応変に対応することも必要では。

委 員 外部評価を実施するにしても、どうしてもスケジュール的に厳しいこともあり、委員会として評価の取りまとめを行うのが困難であることから、結論は各委員の意見の羅列とならざるを得ないのでは。

会 長 今年度の委員会の方向として、三択で決を採りたいがよろしいか。

委 員 異議なし。

※挙手による採決→「②外部評価を行わず、別の内容で別途委員会を開催する」に決定

委 員 外部評価を行わないのであれば、第一次評価結果に対する意見交換等をやってはいかがか。

委 員 明確な目的がないと、開催する意味がないのでは。

委 員 全189事業の第一次評価結果をそのまま提示されても、理解するのに時間がかかってしまうので、要所を事務局でピックアップしてほしい。

事務局 集計し、問題点・課題等を整理したうえで提示したいと考えている。

委 員 特記すべき事業については、それはそれで提示していただいて構わないが、各分野ごとの評価を概括的に文章で示してもらいたい。

委 員 第一次評価結果についての報告に加え、特に注視してほしい事務事業を複数ピックアップしてもらいたい。また、昨年度外部評価を行なった事業が、その後、どのように改善されたのかを確認したい。

事務局 所管と調整したうえで、事務局が報告する方向で準備を進める。

委 員 会議の開催については、昨年度、予定していたスケジュールでは6月、7月、8月、10月、11月の計5回であったが、既に6月は中止しており、8月も、第一次評価結果が整わない可能性が高いのであれば、中止が妥当と考える。次回は10月の開催を目途に準備を進めていただき、11月の開催については、今後の状況を見極めたうえで判断することになると思われる。

委 員 会議の開催予定はあくまで目安とし、様々な社会情勢を加味したうえで臨機応変に対応していくことになると思われる。

委 員 第一次評価結果に対する意見交換にあたっては、直接の質問が叶わない以

上、各事務事業の情報を自ら入手できないことから、第一次評価結果を導き出すにあたっての、説明責任がしっかり果たせるだけの情報がしっかりと網羅された資料を用意いただきたい。情報不足では、評価結果に対して適切な意見を申し伝えることが出来ず、有意義な意見交換とならない。

会 長 次回の会議の開催予定であった8月は中止とし、10月に、第一次評価結果に対する意見交換と、昨年度の外部評価実施事業の改善結果報告等を議題として開催する予定としてよろしいか。

委 員 異議なし。

議事(2) その他

次回開催日と今後の開催日程を確認

- ◇ 次回は10月2日（金）開催とし、11月6日（金）の開催については、次回開催時の進捗状況等により決定することで確認された。

以 上